

# 埼玉県助産師会会報



～ 埼玉県助産師会の理念 ～

すべての生命を大切にし、  
社会から信頼されるケアを行います

No. 44

2019.3.14  
発行



写真提供：大谷 久美子（鴻巣地区）

## CONTENTS

- Page
- 2 会長挨拶
  - 3-4 部会活動報告
    - 助産所部会 「頼れる助産所 ニーズに応えるために」
    - 保健指導部会 「助産師会に生まれて」
    - 勤務助産師部会 「母性看護学領域統合実習における実践活動報告」
  - 第16回いっしょにお産、たのしく育児
  - 5 研修会報告
  - 6-7 特集 「思いがけない妊娠へのサポート」
  - 8 スポットライト「助産師としての活動」  
今年度の表彰者の紹介 通常総会のご案内

会 員 数	363名
(2019.3.1 現在)	
助産所部会	55名
保健指導部会	131名
勤務助産師部会	177名
名誉会員	4名
特別会員	0名

### 【新会員の募集】

助産師会の会員を随時募集しています。  
ホームページをご覧ください。  
TEL: 048-799-3614  
E-mail: mw-saitama@royalocorns.jp  
一般社団法人 埼玉県助産師会 事務局

## 会長挨拶

ごあいさつ

会長 田口 眞弓



いよいよ1989年より始まった平成も幕を閉じ6月1日より新年号が始まります。社会的には2020年の東京オリンピック、そして2022年の世界万博と日本で世界的規模のイベントが開催され多くの人々が集い賑わい経済効果も期待されていますが、一方ではその後の経済事情の先行き不安は拭えないとも言われています。また、全国的な自然大災害の爪痕はまだまだ残り、人々の生活や未来は必ずしも明るくはなく、母子保健においても深刻な少子化問題、虐待、子どもの精神的不安定さや貧困など課題が山積みでもあります。人と人との繋がりで支えられてきた生活や地域が失われ、超高齢社会と言われているこれからの日本社会を支えていく子どもたちが身体的・精神的・社会的にも健康に過ごせるように関わり、生きる力を育むことは母子保健の向上のみならず社会全体の発展にとって大きな課題と言えます。

私たち地域母子保健を担う助産師は、これからの社会の課題にどのようにこたえ、社会の発展のために貢献することができるのでしょうか。私たち助産師は、妊娠・出産・産後と女性が母親になっていく過程に深く関わっています。妊娠中より女性が主体的に生活を見直し、お産に対しても前向きに取り組み、自己効力感を高めていくことは、女性の心身の健康だけでなく、子どもや家族の心身の健康の向上にも影響を及ぼすことが考えられます。産後の母親の孤立による心身の不安定さやストレスによる育児不安も子どもの愛着形成に与える影響は大きいと言われています。助産師が妊娠中よりヘルスの専門家として、その女性の生き方や考え方を受け止め、個別性の高いケアを提供し、女性やその家族にとっても身近な存在として、多職種と連携を深めながら支援することは、これからの社会を支える子どもたちの心身の健康を支えることにつながると考えます。

子どもたちの未来や社会の発展のために、助産師の存在や活動が女性や地域の人々にとってもっと身近な存在となっていくとともに、助産師のケアの質の向上を目指していく必要があります。そのためにも職能団体としての活動は、ますます重要となってきます。私は埼玉県助産師会理事として助産所部会長、そして2016年より会長の任を受け、助産師活動の可視化を推し進めて参りました。今年度を持って会長を辞任することとなりますが、今後も職能団体のさらなる発展のために寄与したいと思っております。引き続き本会の活動に皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 助産所部会報告

越谷地区 渡辺 セイ

## 「頼れる助産所 ニーズに応えるために」

助産所部会では、昨年に続き30年度事業として「お産開業助産師によるシンポジウム」を2回開催し、参加者は41名でした。お産開業助産師の魅力の発信とともに助産所業務の可視化にもなり、多くの参加者から高評価を頂いております。助産所研修制度への周知の場にもなり、お産開業助産師が行う助産ケアや切れ目のないケアの提供を実践する助産師の技と心を伝えることで、お産開業者を後押ししています。今後もシンポジウムを継続し、県内外の助産師・学生の方にも積極的に参加していただき、地域の助産師活動としての豊富な経験や運営のノウハウ、現場の様子等、ホットで役立つ情報を提供し意見交換をしていきたいと思っております。

かつて助産所は地域の妊産婦とその家族に女性の健康支援者としての役割を求められてきました。そして住民のニーズの元、多くのお産が助産師の手で行われてきました。大先輩の技と心を受け継ぎながら安全なお産のスキルを高めて研鑽をしていくことや、地域住民との顔の見える関係性を築き、女性とその家族の健康を守る社会資源として地域にいる開業助産師の存在を広く周知し、示していくことが助産所部会の重要な活動と考えております。

私は、助産院運営の基本方針は母子の健康・生命を第一と考えております。昨今の医療安全の観点は出産の場においても欠かせません。科学的根拠に基づいた安全なお産を提供しつつも、「妊婦さんが気軽に相談できる助産師、頼れる助産所」として安全な助産業務のためのリスクマネジメントに力を注いでいく所存です。助産業務ガイドラインを遵守することは母子の命を守ることに繋がると切に感じています。また、産婦さんとの人間関係は一期一会として大切にしたいと考えております。

私は地域の仲間に支えられて助産院を運営していると感じています。活動の根源は健康です。部会員の皆様も健康に留意して、更なる一步を踏み出しましょう。



## 保健指導部会報告

東松山地区 大野 幸子

## 「助産師会に育まれて」

看護師として病棟で5年勤務した後、助産師学校へ進み助産師の資格を得ました。その後産婦人科で2年働き結婚と共に退職し臨床からは退きました。

出産、子育てが始まり暫くは仕事から離れることを覚悟していましたが、長女が1歳の時に再び助産師として新生児訪問の仕事をしていただく機会が与えられました。助産師活動を行うなら助産師会に所属したいという思いもあり間もなく入会しました。

所属する地区の助産師会は少人数のため、常に何かの役に付かざるを得ない状況でした。「私などに務まるだろうか…」という心配は常にあったものの、気が付けば地区長、いっしょにお産の企画担当、また毎年保健指導部会の地区代表などを担ってきました。

助産師としての知識や経験が少ない私にとっては仲間と共に情報を共有したり、助産師会の研修会に参加することにより多くの学びを得ています。日々の働きの中では助産師と会うことがほとんどないため、助産師の仲間と語り合えることは私にとって貴重な体験となります。また、自分の地域のみでなく、県全域で行われている助産師の活動も知ることができ大きな励みとなっています。私の歩みは助産師会の中で、また助産師の仲間を通して育まれてきたことを感じています。

新生児訪問の仕事は今年で12年目となりました。訪問した時の子供達が、娘の通っている小学校に在学しているのを見かけると「赤ちゃんだったあの子が、こんなに大きくなったのか…」とその子の成長を嬉しく感じ、感慨深いものがあります。訪問に出かける前には「今日はお母さんからどんなお話を聞かせていただけるのだろう」と常に聞く姿勢を第一に臨んでいます。

助産師として地域で働かせていただけることに感謝し、これからの時代に求められている助産師職の在り方について、今後も助産師会を通して学び、自己の研鑽に努めていきたいと思っています。



「母性看護学領域統合実習における実践活動報告」

私は防衛医科大学校 医学教育部看護学科 母性看護学講座に所属しています。防衛省・自衛隊では、任務の多様化・国際化、医療技術の高度化・複雑化に十分に対応し得る資質の高い看護師を養成するため、平成26年度に防衛医科大学校に4年制の看護学科を新設しました。



今回は4年生の統合実習で母性看護学・健康教育コースを選択した学生の実習について紹介したいと思います。このコースでは、公立中学校2年生に性の健康教育を実施しており、今年度は「ライフプランから考えるジェンダーフリー」というタイトルで実施しました。授業は中学校生徒に大変好評で、人生の分岐点のひとつとなる中学生の時期に、自身のライフプランを考えることの重要さを感じられたようです。他にも、県および市の男女共同参画センターの実習では、DV被害者に対する適切な情報提供や支援を学習しました。さらに、生殖補助医療クリニックでは、体外受精の採卵・胚移植および培養室の見学実習を行い、あるクリニックでは、不妊治療を始めようとするカップル対象のクラスにも参加しました。見学中心の実習ではありますが、不妊治療の実際を学ぶだけでなく、今後女性やそのパートナーに対して、看護師としてどうあるべきか、また一人の女性として今後どうしていきたいかといったライフプランを考えるきっかけとなる重要な実習であると考えています。実習をした学生からも、「ライフプランをもっと真剣に考えなくてはいけない」と実感しました」という感想も多く聞かれました。

今後も統合実習において、性と生殖の健康教育に基づいたライフプランニング教育について取り組み、中高生や大学生、また出産年齢にある社会人を対象に積極的に伝え、勤務助産師として活動して参ります。

第16回 いっしょにお産、たのしく育児

川越地区

11月4日(日)ウェスタ川越にて、川越市健康まつりの開催に合わせていっしょにお産、楽しく育児が開催されました。(主催：(社)埼玉県助産師会、共催：健康づくり支援課、後援：(公社)日本助産師会)会場では、骨盤底筋群エクササイズ、バランスボールエクササイズ、産後劇、又、助産師コーナー(埼玉県助産師会川越地区)が設けられ、助産師コーナーにおいては子育て相談、乳児の身長・体重測定、妊婦体験、子宮体験、リフレクソロジー、ハンドマッサージ、母子のための防災が開催されました。開始時には、幅広い年齢層の方達が来場されていました。骨盤底筋群エクササイズでは、女性に混じり、男性も参加して身体を動かすことを楽しんでいました。バランスボールエクササイズでは、予約された方達(母・子)が楽しそうに行っている様子を立見で見学される等、賑わっていました。朝霞地区が担当した産後劇は、初めて育児をする際に、深く関わりのある夫や実母、姑、又、友人達の言動・行動が母親に与える影響をリアルに劇中に取り入れられていた為、これから出産をされる方、育児中の方とその関係者に訴えることができ、孫を持つ年齢層の方にも好評で用意した椅子が足りない状況でした。

子育て相談、乳児の身長・体重測定は両親で確認できるため、終了後、安堵の表情がみられました。妊婦体験では「寝ているのが一番辛い」等と感想を話され、又、子宮体験では父親と子供と一緒に体験したり、若い女性も体験する等、生命誕生の源に関心が寄せられていました。

広報委員 相澤敏子(越谷地区)



amethyst MATERNITY  
赤ちゃんの誕生を、  
いっぱい笑顔で。

大衛株式会社 北関東営業所 〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13エニオ小石川アーバンビル3F TEL.03-5981-7180



研修会報告

安全対策委員会・助産所部会スペシャル企画研修会

10月7日、埼玉県総合医局機構・地域医療教育センターにて安全対策委員会・助産所部会スペシャル企画研修会が行われました。午前は葛飾赤十字産院産婦人科医第一産科部長の林瑞成先生による「臨床に役立つ胎児心拍モニタリング判読について」の講義が行われ、参加者は37名でした。実際のモニター所見を使い、その時の胎児の状況の読み解き方を学びました。また、モニターの落とし穴や判断に迷った時には記録に残すこと、重症な場合を想定して安全を第一に考え対応することなど、現場での状況を加味した、具体的で実践できる講義でした。分娩後、胎児・胎盤の状況と照らし合わせ、一例一例大切にすることという言葉や臍帯のワルトンゼリーの素晴らしさ等も興味深い内容でした。



午後は当会会長、田口眞弓氏によるスムーズなお産のための妊娠中からの身体的アプローチの講義で、参加者は32名でした。妊婦自身が自分の体に気づくことの大切さや母の生活習慣の改善が子供を始めとする家族や地域、公衆衛生の健康レベルもアップするという内容は印象的でした。骨盤を中心とした解剖学から始まり、実技では心拍数をアップするトレーニングもあり、身をもって体験し、今の自分の体の状況に気づく良い機会となりました。今後の指導に役立つ有意義な研修でした。 広報委員 栗原 弘子(所沢地区)

平成30年度スキルアップ研修会

11月25日、埼玉県地域医療教育センターにおいて勤務助産師部会・埼玉県母体・新生児搬送コーディネーター事業合同企画のスキルアップ研修会が開催されました。

前半は済生会川口総合病院・感染管理認定看護師であり助産師の柴田幸子さんに「感染リスクと対応」について講演していただきました。ハキハキとした柴田先生が時折参加者に質問され、ほどよい緊張感の中講義は進みました。病気をしたことの無い世代への健康教育の大切さや難しさ、血液を扱う助産師は意外にも感染に対して無頓着な面があること、日々の習慣が何より大切なことを実感しました。



後半は、埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センターの増子寛子先生による「母体救命と産科出血」の講演でした。母体救命・予後改善のポイント、それは「早期発見に尽きる！」ということ。そしてそのために一次施設に従事する私たち助産師が知っておくべき知識・対応を教えてくださいました。具体的には①妊娠中の出血(前置胎盤と常位胎盤早期剥離)②分娩・産褥期の出血③産科危機的出血についてです。わかりやすく工夫されたスライドに沿って講義は進み、時折3人の娘さんを育児中の増子先生のプライベートが垣間見られるスライドでブレイクタイムもありました。「搬送を受ける側の立場からオーバートリアージはOKです!」と有り難いお言葉をいただきました。一次施設でフローチャートに沿って早い段階での搬送の判断が必要だと身が引き締まりました。

広報委員 梅原由里(春日部地区)

医療安全研修会 -分娩を取り扱う開業助産師のための医療事故調査制度ガイドラインの理解-

12月9日、埼玉県総合医局機構・地域医療教育センターにおいて、医療安全対策研修会が行われました。午前は当会会長の田口眞弓氏より、「医療事故調査制度ガイドラインの概要について」の講演でした。本ガイドラインは平成27年10月に施行された医療事故調査制度を適切に運用するために当会が作成したガイドラインです。まず、事故が起きてしまった場合、どのようなステップを踏んで対応していくか、1つ1つの流れを細かく講義して頂きました。また、どのような事故がこの制度の対象になりうるのか事例をもとに説明がありました。人が医療を扱う限り事故をゼロにはできないため、個人ではなく構造的な要因に着目した調査を行うことが求められ、本制度を理解し、医療安全の向上に務めていく必要性を学びました。



午後からは当会副会長の北田ひろ代氏による「質管理にみる医療安全の考え方-開業助産師業務の質管理を考える-」についての講義でした。事故をなくするという発想ではなく、エラーが起きる要因を理解することや不測の事態にうまく対処するリカバリー力をつけること、危機発生前の準備やトレーニングをしていくことで組織を高めていく大切さを学びました。最後に参加者で「開業助産師が事業を継続していく上で、必要となる組織的な医療安全の取り組みについて」などをディスカッションしました。社会が求める安心安全のレベルが高まっている現在、組織の質の向上を学ぶ大変有意義な研修でした。

広報委員 大矢 身和(東松山地区)



## リプロダクティブ・ヘルス《性と生殖に関する健康》意思決定への支援と助産師

(総務理事・事務局 松山亜佐子)

『助産師』とは、文字通り『お産』を『助ける』専門職です。私たちには出産現場を知る専門職として、いのちの大切さを基盤とした《性と生殖に関する健康》に関する知識と経験があります。そのため助産師の活動の場は、助産所や病産院に限定されることなく、母子保健事業や学校教育現場などさまざまです。今回はその中から下記3点をご紹介します。《性と生殖に関する健康》は、すべての人において自らの意思決定が重要であり、助産師の役割は意思決定への支援です。この役割は、出産・育児の場面でも同じだと考えています。

### ①子育て世代包括支援センターでの助産師の活動 (広報委員 栗原弘子 所沢地区)

子育て世代包括支援センターに助産師として携わっています。私が携わっている市では妊娠期からの切れ目のない支援を目指し、母子健康手帳交付時の面接、妊産婦への電話かけ、新生児訪問、産後の相談等を行っています。未入籍で母子健康手帳を受け取る割合が3割程度、また、「予想外の妊娠」と答える方も3割程度います。中には「産むかどうしようか迷いました」と話す方もいます。

子育て世代包括支援センターに「妊娠?! どうしよう?」と相談に来る女性はほんのわずかです。しかし悩んでいる女性は少なくないはず。このような女性が一人で抱え込まないように、助産師としてこれまで培ってきた技術と経験を活かして支援したいと思っています。センターでは、子育て世代包括支援センターや埼玉県の母子保健事業である『にんしんSOS埼玉』のポスター掲示の協力を産院にお願ひし、近隣の薬局には『にんしんSOS埼玉』のカード配布の協力も進めています。にんしんSOS埼玉の相談窓口は365日開設され、メールやTwitter相談の受付は24時間と、未成年者や直接電話しにくい状況の方にも相談しやすい工夫がなされています。スタッフは助産師・看護師・保健師・医師・社会福祉士・保育士・教員・精神保健福祉士で構成され、10代の妊娠を中心に、相談者をつなぐハブになる役割を担っています。

妊娠SOSパッケージ研修を受け、母子健康手帳交付前の「妊娠?! どうしよう?」と迷っている方の相談に対して、動揺することが少なくなりました。その方の置かれた状況をイメージしやすくなり、その方の思いを受け止め、決断に寄り添うことが大切だということが明確になったからです。また、母子生活支援施設などのサポート機関の具体的な活動を把握することができ、相談に来た方に応じて紹介できること、対応に困ったときには『にんしんSOS埼玉』に聞くことができることも心強く感じています。出産を回避できない週数での相談では、里親制度という産むことと育てることを切り離して考える手段があることを知り得たことも妊娠に戸惑う方の相談に困惑しなくなった一因です。まずは妊婦さんの声に耳を傾け、妊婦さん自身の決断を一番にサポートしていくことを大切にしています。

関係機関との情報交換しやすい関係づくり、学校との連携を視野に入れた活動、何より悩んでいる方に「あそこに行って話してみようかな」と思われるような雰囲気づくりに努めています。命に携わる助産師だからこそできる支援をしていきたいと思っています。



# のサポート」

## ②思春期教育 —思春期保健事業で伝えていること—

(広報委員 吉原さやか 朝霞地区)

思春期保健事業として行われた、県立ふじみ野高校三年生に向けた性教育の授業を取材してきました。講師は埼玉県助産師会朝霞地区の櫻井裕子助産師です。

一命の始まり—から講義は始まりました。排卵から受精、妊娠の成立と話は続き、授業の始め、生徒たちは少し恥ずかしそうにうつむきかげんで聞いていましたが、櫻井助産師の人柄、話術で生徒たちは話にどんどん引き込まれていきます。

もし妊娠したらさせたら、正しい避妊法、自分自身の体や成長のこと…もうすぐ成人し、大人として歩いていく高校三年生の彼らが今必要な内容を、「月経時の女性のつらさに対し男性はどういたわってあげたらいいか」といった具体的な例話でわかりやすく話されていました。

また、赤ちゃんがどのようにして生まれてくるか、人形で示しながら出産の様子も丁寧に説明されました。

出産場面の印象を伝え、性を肯定的なものとして受けとめられるような内容を取り入れ、性教育を思春期の学生にまじめに、かつ自然に話せるのは助産師ではないでしょうか。

この授業でも、様々な命の現場に出会った櫻井助産師の言葉の重みを生徒たちは感じているようでした。

「計画しない妊娠をしない、させない」

思春期における性教育の目的はこれだけではありません。性教育のすべての内容は自分を大切に、相手も尊重し大切にすることにつながっていきます。

助産師は、命をつなぐ世代に寄り添い、彼らが相談したい時にそばで寄り添い見守る存在でありたいと考えます。



## ③里親制度の選択と助産師としての関わり

(広報委員 嶋添典子 川口地区)

里親制度とは、何らかの事情により家庭での養育が困難又は受けられなくなった子ども等に、温かい愛情と正しい理解を持った家庭環境の下での養育を提供する制度です。

この制度は、子どものための社会貢献を目的として、里親として子どもを養育してみたいと考えている方を後押しするものであり、一方、出産後の子どもの養育について悩む方にとっても、活用できる方法の一つです。里親には4つの種類(養育里親・養子縁組里親・専門里親・親族里親)がありますが、いずれも里親になるための研修を修了し、定められた条件を満たす必要があります。初めての育児に不慣れなことが想定されるため、養育を委託された後の支援も充実しており、預ける側としても、安心できると思います。養子縁組を紹介できる施設は全国に10か所埼玉県には2か所あり、信頼のおける施設として登録されています。

ある時思いがけない妊娠をし、産み育てることができるかどうか一人で悩み、妊娠の早期にその決定を迫られ葛藤する場合があります。そのような時、ひとつの選択肢としてこの制度は活用できます。各地域の保健センターなどの相談窓口では、こうした妊婦の不安に寄り添い、生活の様子と一緒に確認しながら、様々な職種が協働して支援を行っています。出産後の養育は難しいが出産を希望するといった場合には、制度の案内や相談場所について情報提供することによって妊婦の選択肢が増えることになります。妊娠の初期から妊婦に寄り添い、母子の健康のために連携し支援していきたいと思えます。

今回、里親制度について出前講座でご講義いただきました埼玉県福祉部子ども安全課の大河戸氏に、深く感謝いたします。



スポットライト  
SPOT LIGHT

## 助産師としての活動 中島 明子（蓮田地区）

助産師会の皆様も様々なキャリアの方がいるかと思いますが、執筆依頼をいただきましたので、私の助産師活動をご紹介しますと思います。

私は助産師として産科・GCU/NICU・婦人科・小児科で20年臨床経験後、現在係長として総合周産期母子医療センターで勤務しています。救急病棟での勤務は4年目になりましたが、周産期の患者はほとんどいません。しかし、現在妊産婦の救急対応は様々な研修が行われ、注目されている領域だと感じます。私は臨床実践に恵まれ、救急病棟での経験を妊産婦対応に結びつけて考えることで、周産期救急をより理解できるようになりました。

救急病棟勤務の他には、蓮田市内の小・中学校で性教育普及活動と、子育て支援としてベビーマッサージとアフターピクスを行っています。医療教授システム学会ではコースアドバイザーとして、救急隊員・救急救命士対象のプレホスピタルにおける周産期搬送・対応IPEDコース（プロバイダーコース・インストラクターコース）のテキストやプログラム作成を行い、インストラクターとして全国の医師・助産師・救急隊員・救急救命士と共に研修を行っています。県内では埼玉県消防学校において、救急隊員養成カリキュラムの周産期講義を担当し講義・指導を行っております。本年度は日本輸血・細胞治療学会認定の臨床輸血看護師の認定を受ける予定であり、来年度は施設における周産期出血に関する輸血への課題に取り組んでゆきたいと思っています。



（筆者：中央）



## 平成30年度表彰受賞者の紹介（※平成31年2月現在／受賞日順）

表彰者	地区	受賞名
伊藤 匡子	上尾地区	埼玉県看護功労者知事表彰
伊深 佳洋子	所沢地区	日本助産師会会長表彰
宇田川 久美子	春日部地区	日本助産師会会長表彰
四分一 明美	熊谷地区	日本助産師会会長表彰
瀧田 洋子	越谷地区	健やか親子21全国大会厚生労働大臣表彰
高松 京子	鴻巣地区	健やか親子21全国大会日本家族計画協会会長表彰
牧岡 晴美	越谷地区	埼玉県公衆衛生事業功労者知事表彰
高橋 麻里子	さいたま市地区	第43回母子保健奨励賞（さいたま市推薦）
渡辺 セイ	越谷地区	公衆衛生事業功労者日本公衆衛生協会会長表彰

### 通常総会のご案内

平成31年5月18日（土） 10:00～  
 埼玉県県民健康センターにて開催予定です。

Baby  
madonna

## 乳頭キレッツのケアに！

赤ちゃんのおムツがぶれにも



母のハーブの香り



天然成分  
100%

スキンケア指導で  
人気です！

- お産セットに
- 産科での指導に
- 産院・母乳育児相談室で
- 母子訪問指導時に

※お産セット・産科・母乳育児相談室・母子訪問指導時にのみご利用いただけます。

詳細に関するお問い合わせは、こちらです。  
**TEL.0120-39-1433**  
 （通話料別）

（株）ベビー・マドンナ マドンナ株式会社